

文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	次長	係長	担当	担当	文書取扱主任								

第 9 回 厚生常任委員会 会議録

開催年月日	平成28年2月8日(月曜日)	開会 13時28分	閉会 14時40分
開催場所	第一委員会室		
出席委員	堀、木下、館内、田村、水口、山口	事務局	菊井事務局長
欠席委員	なし		竹谷次長
説明員	別紙のとおり		藤井主事
議 件	別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、全て報告済みとした。		
	(1) 平成27年度介護保険特別会計補正予算について		
	(2) 滝川市老人デイサービスセンター条例の一部を改正する条例について		
	○ 地域密着型サービスの指定予定業者の事業予定地について		
	(3) 電子カルテシステムの導入について		
	(4) 中空知医療連携ネットワークの進捗状況について		
	(5) 地域包括ケア病棟の設置について		
	(6) 滝川市病院事業会計における経営状況について		
	2 その他について		
	なし。		
	3 次回委員会の日程について		
	2月17日(水)午後1時30分から第一委員会室で開催することに決定した。		
上記記載のとおり相違ない。 厚生常任委員長 堀 重 雄 ㊞			

平成28年2月4日

滝川市議会議長 水 口 典 一 様

滝川市長 前 田 康 吉

厚生常任委員会への説明員の出席について

平成28年2月1日付け滝議第180号で通知のありました厚生常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしく申し上げます。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしく申し上げます。

記

滝川市長の委任を受けた者

保健福祉部長	高 橋 一 昭
保健福祉部次長	国 嶋 隆 雄
保健福祉部介護福祉課長	松 澤 公 和
保健福祉部介護福祉課主幹	柳 圭 史
保健福祉部介護福祉課係長	土 橋 祐 二
保健福祉部介護福祉課係長	鈴 木 勝 敬
保健福祉部介護福祉課主査	須 藤 公 夫
保健福祉部介護福祉課地域包括支援センター副所長	相 澤 理 佳 子
市立病院事務部長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部次長	田 湯 宏 昌
市立病院事務部経営管理課長	椿 真 人
市立病院事務部事務課長補佐	澤 田 忠 信
市立病院事務部事務課長補佐	梅 津 敏 彦
市立病院事務部事務課財務用度係長	渡 辺 弘 行
市立病院事務部事務課財務用度係長	高 林 宏 光

(総務部総務課総務係)

第9回 厚生常任委員会

日 時 平成28年2月8日(月)
午後1時30分～
場 所 第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶 (委員動静)

1 所管からの報告事項について

《保健福祉部》

- (1) 平成27年度介護保険特別会計補正予算について (資料) 介護福祉課
- (2) 滝川市老人デイサービスセンター条例の一部を改正する条例について (資料) 介護福祉課

《市立病院》

- (3) 電子カルテシステムの導入について (資料) 経営管理課
- (4) 中空知医療連携ネットワークの進捗状況について (資料) 経営管理課
- (5) 地域包括ケア病棟の設置について (資料) 事務課
- (6) 滝川市病院事業会計における経営状況について (資料) 事務課

2 その他について

3 次回委員会の日程について

2月17日(水) 13:30～ 第一委員会室

○ 閉 会

第9回 厚生常任委員会

H28.2.8 (月)13:30~

第一委員会室

開 会 13:28

委員長 それでは、第9回厚生常任委員会を開会いたします。

委員動静報告

委員長 委員動静ですが、委員は全員出席しております。傍聴は清水議員、山本議員、安樂議員、本間議員、井上議員、小野議員、渡邊議員、東元議員が出席。報道は、プレス空知、道新の傍聴を許可しております。

1 所管からの報告事項について

委員長 それでは、報告事項ですが(1)、(2)につきましては議案関連ですので、ご留意をお願いします。

(1)、平成27年度介護保険特別会計補正予算について説明を求めます。

(1) 平成27年度介護保険特別会計補正予算について

土橋係長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 それでは、報告済みといたします。

次に、(2)、滝川市老人デイサービスセンター条例の一部を改正する条例について説明を求めます。

(2) 滝川市老人デイサービスセンター条例の一部を改正する条例について

須藤主査 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 それでは、報告済みといたします。

○地域密着型サービスの指定予定業者の事業予定地について

委員長 ここで、柳主幹から発言の申し出がございましたので、許可いたします。

柳主幹。

柳主幹 お時間いただきまして、前回の厚生常任委員会で報告させていただきました地域密着型サービスの指定予定事業者の決定についてですが、その後の動きがありましたので、ご報告させていただきます。

11月27日の第7回厚生常任委員会で、事業予定地のご質疑がございました。その際、提案時に東町のカラオケボックスの裏の空き地を予定しているとご報告させていただきましたが、その後事業者から、東町団地の一本東側の空き地で行いたいと連絡がございました。設置場所はそこに決定いたしましたので、その報告でございます。理由といたしましては、この場所は当初事業者においても予定しなかった場所でしたが、地権者の事情で公募の時期まで間に合わないために、カラオケボックスの横を確保して提案していたのですが、地権者との調整がついたということで、移したいということでございます。なお、地域密着型施設に関する立地条件の基準があり、それは利用者の家族や地域住民との交流の機会を確保できる地域にあることが条件になります。周りが住宅地で囲まれていて、当初の予定の場所と比較しても100メートルほどしか離れていな

委員 長 いので、市としても問題なしと判断しています。
報告について、何かございますか。
(なしの声あり)

委員 長 それでは、報告済みといたします。
所管入れかえのため休憩いたします。
休 憩 13:38
再 開 13:39

委員 長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。
次に、(3)、電子カルテシステムの導入について説明を求めます。
(3) 電子カルテシステムの導入について
(別紙資料に基づき説明する。)

樺 課 長 説明が終わりました。
委員 長 質疑ございますか。

副委員長 医師によっては、パソコンが得意ではない方もいると思うのですが、その関係はどのようにするのか伺います。
それと、もう一点ですが、今までのカルテは何カ月ぐらいまで併用して使うのか伺います。

樺 課 長 まず、医師につきましては、今一生懸命操作の練習をしているところでございます。一部の医師につきましては、補助者をつける予定で進めておりますが、現在練習していますので、最初は多少時間がかかるかと思いますが、使い勝手としては大きく変更がないことから、患者さんに大きなご迷惑をかけるようなことはないと思います。
また、現行の紙のカルテでございますが、今までの診療の経過というのは既に記載されていますので、今のところ6カ月間は現行の紙カルテを併用して診察に当たる予定をしております。

委員 長 ほかに質疑ございますか。

田 村 資料に、患者の待ち時間が長くなる可能性があるということをわざわざ載せているのは、長くなることを考えているととれますが、どれぐらいの時間を想定しているのか伺います。

樺 課 長 想定している時間は、今のところございません。ただ、他の病院の事例を見ますと、やはり電子カルテを導入したばかりの一、二週間は多少時間がかかっているようなので、記載いたしました。

委員 長 ほかに質疑ございますか。
(なしの声あり)

委員 長 それでは、報告済みといたします。
続きまして、(4)、中空知医療連携ネットワークの進捗状況について説明を求めます。
(4) 中空知医療連携ネットワークの進捗状況について
(別紙資料に基づき説明する。)

樺 課 長 説明が終わりました。
委員 長 質疑ございますか。
(なしの声あり)

委員 長 それでは、報告済みといたします。
続きまして、(5)、地域包括ケア病棟の設置について説明を求めます。

(5) 地域包括ケア病棟の設置について

- 梅津課長補佐 (別紙資料に基づき説明する。)
- 委員長 説明が終わりました。
質疑ございますか。
- 館内 45床ということですが、一般病棟が平成27年度60パーセント程度に落ち込んでいますが、地域包括病棟はどの程度の稼働率を見込んでいますか。
- 梅津課長補佐 現在シミュレーションをしているところでございますけれども、少ない状況で45パーセントほどになってございます。ただ、収益面を勘案しますと、やはり70パーセントほどにしていかなければならないと思っているところでございます。
- 館内 収益への影響ということですが、月額100万円ほどの増収が見込まれますと資料に書いてありますが、支出増を差し引いた見込みでしょうか。
- 鈴木部長 シミュレーションの結果ということですが、さまざまな疾病によってDPCで定められている点数が違うということで、入院期間がふえ、地域包括ケア病棟に行くことで点数として高くとることができます。そういった患者さんを中心に、動かしていかなければいけないと考えています。この中には人件費として、今は7対1の看護師の配置基準ですが、地域包括ケア病棟におきましては13対1となることで看護師の数が若干少なくなるということもあります。ただ、3月からの届け出を考えているわけですが、すぐに看護師を減らすということにはならないことも含めて、資料に書いてあるのはあくまでも収益上の影響額ということでご理解をいただきたいと思えます。
- 委員長 ほかに質疑ございますか。
- 副委員長 45床がケア病棟ということですが、一般の早期の方は、最初からケア病棟に入れないのでしょうか。
- 梅津課長補佐 制度上では、直接入院ということも可能でございます。ただ、当院につきましては急性期の病院でございますから、急性期の患者をまず一般病棟で受け入れ、その方の急性期治療が終わった後、地域包括ケア病棟に移っていただくことで考えてございます。直接入院というのは、例えば在宅で訪問診療等をしている方が急性増悪した場合等は、そういったパターンも考えられないことではございませんが、通常は一般病棟で急性期の治療を終えて、その後在宅復帰に向けてリハビリテーションもしくは生活支援等をしていただく運用を考えております。
- 副委員長 何科が特に多いということをシミュレーションしていますか。
- 梅津課長補佐 やはり整形外科もしくは内科が多いと考えてございます。
- 委員長 ほかに質疑ございますか。
(なしの声あり)
- 委員長 それでは、報告済みといたします。
続きまして、(6)、滝川市病院事業会計における経営状況について説明を求めます。
- (6) 滝川市病院事業会計における経営状況について
(別紙資料に基づき説明する。)
- 渡辺係長 説明が終わりました。
- 委員長 質疑ございますか。
- 館内 入院の減少率が15.3パーセントマイナスということですが、これは平成

28年度以降も低いままになってしまうのでしょうか。

それと、収支状況のグラフに前年対比で書かれてあると思うのですが、平成23、24、25、26年と稼働率で示していただきたいと思います。

鈴木部長

入院患者減の状況ですけれども、分析をさまざまな角度からしておりまして、科別でいきますと内科が一番減少しております。12月末現在での入院患者の延べ患者数で9,309人、眼科が非常勤になっているということもありまして、入院患者がほとんどおらず、平成26年度と比較すると246人、あと泌尿器科が398人、精神科が505人、入院患者が減っております。平成28年度以降の予想ですが、眼科は常勤医が決まったことで眼科の入院、オペが通常どおりに戻ると考えています。あと、内科の医師も糖尿病の専門の医師が1人ふえることで、来年度の医師の配置については入院患者がふえる要素になると考えております。

分析のことで若干話をさせていただきますと、滝川の広域消防における滝川市立病院への搬送入院患者数を調べてみたのですが、平成26年度の消防の搬送件数が3,051件、27年が2,905件、搬送件数は全体で減っております。滝川市立病院に運ばれたケースは、平成26年が1,170件、27年が1,078件で92件減と、全体が減っているということであれば、この程度が減ることはやむを得ないのかなと分析をしています。あと、疾病別でも調査をいたしました。平成26年と27年を12月までの同時期で比較すると、消化器系の疾患が68件減、呼吸器の疾患が38件減、あと感染症、寄生虫症が34件減、心筋梗塞や心不全関係が27件減という状況になっています。消化器系の疾患といえば、当病院は消化器の専門医は1名いますが、専門を標榜しているわけではなく、内科の中でそういった疾患を見ているという部分で弱いところはあると思いますが、この状況で疾患が減っているのかというのはなかなか難しいかと思っています。あと医療費ベースで国保の医療費がどうなっているのかということも若干調べさせていただいたのですが、全体として滝川市国保会計の医療費は減っている状況にあるということで、約3.6パーセントぐらい4月から11月の累計で昨年度より減っている状況にあります。そのうち滝川市立病院も減ってまして、18パーセントほど減っているというような状況にあります。さまざまな中身を分析しながら平成28年度に向かって対応策、できることがあればやっていきたいと考えていますが、ご質疑のあった平成28年度以降、26年が非常によかったということもあるので、27年以上に患者数がふえることを期待しているところですが、今申し上げたように分析しながら対策を講じていきたいと思っております。

渡辺係長

入院の病床稼働率につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。当院につきましては、現在314床ございまして、平成23年度につきましては稼働率80.8パーセント、1日当たりの平均が254.8人となっております。平成24年度は利用率76.3パーセント、1日当たり平均240.4人、25年度は79.1パーセント、1日当たり248.3人、26年度は80.7パーセント、1日当たり253.3人、27年11月ベースでいきますと稼働率67.9パーセント、1日当たり213.3人という状況になっております。

館内

先ほど出ました包括ケア病棟も合わせると、全体の稼働率はどうなる見込みか、伺います。

鈴木部長

平成28年度の予算としてどう見ていくのかということでしょうか。平成28年としては、病院としての収支計画も含めて持っている目標は稼働率80パーセントということで見えています。平成26年度決算も80パーセントをクリアしたという

ことですが、27年度では7割を切るような状況ですが、予算ベースでは80パーセントを何とか確保する予算を提案させていただきたいと考えているところです。

館内

収支のベースで、3億円以上の悪化になったということで、中長期的な計画と比較しますとどのようになっているのかお伺いします。また、収支計画表を資料要求したいと思います。

鈴木部長

病院建設時に立てました収支計画を平成24年に見直しをしたところですが、先ほど説明いたしましたキャッシュフローベースの収支ということで、約3億5,000万円が3月31日において現金が不足するだろうという予想になっておりますが、平成27年3月31日未現在で補填財源が6億1,134万7,214円ということで、この金額につきましては、収支計画で1億9,646万5,000円と見ておりました。約5億円近い金額をふやしてきたというのは、平成23年以降ある程度患者数もふえて、経営的によかったことが留保財源の増につながっているということでしたが、平成27年度は起債の償還も大きく、非常に厳しい状況で、収支計画は1億398万1,000円の留保財源になるだろうと予測していました。結果的に今6億1,100万円あるということで、3億四、五千万円、そういった金額が赤字になったとして、この補填財源を補填するということになりますと補填財源が約2億五、六千万円に減少するようなこととなります。2億五、六千万円は、先ほど言った計画からいってもまだ上の位置にあるということですが、この厳しい状況が2年続くことにならないよう私たちも頑張ろうと思っておりますが、平成28年度は厳しい状況になると思っておりますので、先ほど言ったようなことで28年度は27年度を上回るような患者数の獲得も含めて経営状況改善に努めていきたいと考えています。

委員長

資料要求について、用意できますか。

鈴木部長

資料については、前回の平成24年の収支計画でよければ、出すことができます。

委員長

それでは、館内委員からの資料要求がありましたが、本委員会として要求することに、異議ございますか。

(異議なしの声あり)

委員長

それでは、資料の提出をお願いいたします。

館内

収支の悪化で貸借対照表の現金がゼロになり、借り入れが増額すると思いますけれども、最大どの程度の借り入れになるのか。また、一般会計にしわ寄せなどは考えられるのか伺います。

鈴木部長

予算上における一時借り入れの限度額は、10億円で設定させていただいておりますので、一時的に支払いが重なるのは6月、12月の職員の手当、また3月の起債償還、この辺が厳しい状況になるかと思っておりますが、予算をきちんと固めた上で、不足する時期に一時借り入れが発生するだろうと思っております。どの程度になるか具体的な数字をここでお話しすることはできませんが、いずれにしても発生した場合については、主に一般会計から借りて、利息も含めてお互いの利息を精算し合うというような方式にしておりますので、平成28年度も同様に進めさせていただきたいと思っております。

委員長

ほかに質疑ございますか。

副委員長

これだけ入院が減ったということは、病院内で問題か何かがあるような気がするのですが、そのことについてお伺いします。

鈴木部長

問題があるかどうかについては、医師の個々のスキルとか評判とか、そういっ

たものがまちの中で聞かれることに関しては、大きな声があるわけではありません。話がずれますが、全道の病院の状況についてデータで示させていただいています。平成23年度以降、全道平均は全てマイナスという中で、当院の平成23年は開院効果もありましたが、8.2パーセント、その次の年はその反動で落ちましたが、25年、3.7パーセント、26年、2パーセント、これがもし全道平均ベースで推移していたとすれば、27年度の85.6パーセントというのは非常に大きな数字ではないととれる部分もあるかと思います。入院で2位、5位、それだけ患者数を集めてきたというのは、もちろん医師の配置、皮膚科が常勤医になったなど、いろんなことが重なっていますので、なかなか率だけでご説明は難しいのです。今副委員長がおっしゃいました問題、そういったことがもしあるとすれば、入院で治療していても外来で十分というような判断をされる医師もいないわけではありませんので、そういったことが問題として若干あるのかと思いますけれども、それで減っているとは思いませんし、紹介率等も大きくは変わっていません。砂川市に患者がふえていることも大きくはありませんので、何が減少している原因になっているのかは、もう少し分析をさせていただければと思います。

委員長
田村

ほかに質疑ございますか。

今の答弁で、85.6パーセントが必ずしも低い数字でないと言うけれども、これは非常に低い数字なので、認識を改めてもらわないとだめなのです。こんな数字でずっといくと将来的には倒産です。それと、今副委員長も言っているけれども、ロコミや評判というのも非常に大事な問題なので、その辺をどのように把握しているのか。外来患者の中で、入院したいという人がいるという話を聞いているのです。ただ、なぜか入院させてくれないのだと。だから、入院に至るまで重症ではないのか、それはわからないけれども、例えば入院していて、あと3日、4日置いてほしいのだと、家に帰っても家族が帰ってこないとか、いろいろな条件もあると思うのです。そこを60日と縛ってしまうと、これまた非常に冷たい話のように聞こえるのです。ここ二、三日の処方箋でいいのですが、何枚ぐらい処方箋が書かれているのですか。それと、院外処方の薬局が偏っていないかどうかお伺いします。85.6パーセント、低い数字だということの認識のもとにお答え願いたいと思います。

鈴木部長

答弁の仕方がまずかったかもしれませんが、もちろん85.6パーセントというのは非常に厳しい数字だと受けとめております。ただ、平成23年度以降の数字の評価もあるということでお話をさせていただきましたが、85.6パーセントで約1万人減り、4億円落ちているということは、非常に厳しい状況だということとは理解しております。

外来患者が入院したい、させてくれないということに関して、私どもの言葉で何が原因かは言える立場にないので、もちろん入院が必要な場合については部屋があいているわけですから、そういったうわさ、もしくは話があるとなれば、原因について突き詰めていかなければいけないと思います。また、ロコミは本当に重要なことだと思っております。その中で、当院にある意見箱ですとか、苦情意見の話の中で、医師への苦情というのは皆無ではありませんが、ふえていることはありませんし、逆に非常にお世話になったというような評価は少しずつふえているのが現状です。ただ、委員におかれましても何かお聞きすることがありましたら、どういうことで起きているのかということも含めて対応策

を考えていかざるを得ないと。また、接遇面では接遇研修を毎年のように行っておりますし、医師向けの接遇研修を昨年も行いました。患者さんに優しく、また患者さんに選ばれる病院を目指してということは院長も日ごろ言っておりますので、そういった病院を目指していきたいと思っています。

処方箋の関係でございますが、全体の処方件数というのは院内、院外、処方枚数はわかりますが、どこの薬局に何枚行っているかまでは資料としてはありません。平成27年度の12月末で入院の処方件数というのは1万9,266件、月平均2,140件、外来が7,263件で月平均807件の処方箋が出ている状況にあります。ほかに質疑ございますか。

委員長

(なしの声あり)

委員長

それでは、報告済みといたします。

2 その他について

委員長

次に、その他について、委員から何かありますか。

(なしの声あり)

委員長

事務局から何かありますか。

(なしの声あり)

委員長

休憩します。

休 憩 14:23

再 開 14:39

委員長

休憩前に引き続き会議を再開します。

3 次回委員会の日程について

委員長

次回委員会の日程につきましては、2月17日(水)13時30分から開催します。以上で、第9回厚生常任委員会を閉会いたします。

閉 会 14:40